

新しい痛み止めの貼り薬 ～ジクトル®テープの特徴と注意点～

1. 湿布の種類と特徴

関節や腰・肩の痛み止めに使われる貼り薬、いわゆる“湿布”と呼ばれるものにはパップ剤とテープ剤の2種類があります。この2つにはそれぞれ特徴があり、貼る部位や患者さまの使用感にあわせて使い分けされています。(表を参照)

共通する特徴として「局所作用(貼った場所に効果がある)」であることが挙げられます。

2. ジクトル®テープについて

2022年6月、腰痛、肩こり、腱鞘炎などに使える貼り薬として「ジクトル®テープ」が登場しました。これは今までのいわゆる“湿布”と異なり、「全身作用(貼った場所以外にも効果がある)」の薬です。今回はこの貼り薬について詳しく紹介します。



・どんな薬？

経皮吸収型(貼った場所から薬の成分が血液に吸収され、血液の流れに乗って全身に運ばれる全身性)の消炎鎮痛薬(痛み止め)です。

成分名はジクロフェナクナトリウムで、1日1回貼ることで、従来の飲み薬を内服するのと同じように全身の痛み止め効果が得られると言われています。

見た目は今までの湿布によく似ていますが、全身に効くという点で全く異なる薬です。
他の消炎鎮痛薬(痛み止め)との併用は避けることが推奨されています。

・メリットは？

薬を飲みこむ力が弱い人でも使える痛み止めです。

1日1回貼ることで寝ている間なども効果が切れることなく持続することが期待できます。

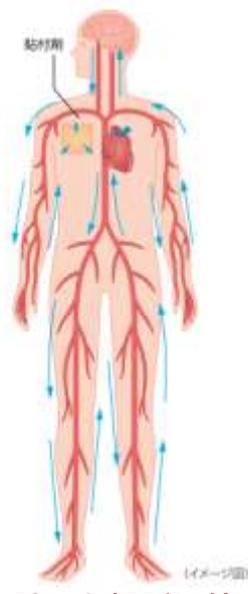
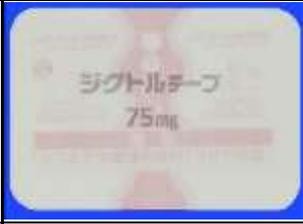
従来の飲み薬よりも胃を荒らしにくいと言われています。

・気を付けること

ジクトル®テープは貼る部位を「胸部、腹部、上腕部、背部、腰部または大腿部」と決められています。例えば、手首が痛いからと言って手首の関節に貼ってしまうと、薬が正しく体に取り込まれず、本来の鎮痛効果が現れなくなることも考えられます。かならず医師の指示に従って、上記のいずれかの部位に貼るようにしましょう。

また、テープ剤は皮膚刺激性が強いため、同じ部位に貼り続けると皮膚障害が起こるおそれがあります。貼る部位は毎日変えるようにしましょう。

表：貼り薬の種類と特徴

	パップ剤		テープ剤	
特徴	水分を含む →冷却効果がある		水分を含まない →患部を冷やさない	
厚さ	厚い		薄い	
粘着力	弱い（皮膚刺激が少ない）		強い（はがれにくい）	
当院採用薬	従来型	長時間作用型		経皮吸収型
	セルタッチ®パップ ラクティオンパップ	モーラス®パップXR	モーラス®テープ ロキソニン®テープ	ジクトル®テープ
貼る回数	1日2回		1日1回	
作用点	局所作用			全身作用
貼る場所	患部 (痛みのあるところ)			胸部、腹部、 上腕部、背部など
身体への作用のイメージ	 <p>貼った場所へ効く</p>			 <p>貼った場所以外にも効く</p>
形体				
色	白		肌色など	白

3. さいごに

経皮吸収型の薬は、今回紹介した消炎鎮痛薬だけでなく、パーキンソン病、気管支喘息、過活動膀胱など多岐にわたる疾患の治療に使われています。副作用の軽減や食事の影響の回避、薬の使用が可視化されるなどメリットがある一方で、適正使用されずに有効性が損なわれたり副作用が起こったりしています。たかが貼り薬と思わず、適正な使用を心がけましょう。

参考資料：

貼る、を知る。TDDSパンフレット（久光製薬 2021年1月版）

ジクトル®テープ インタビューフォーム・製品情報概要・患者指導せん